

英語学概論 (第14講)

英語と文化

この講で学ぶこと

- ▶ 言語を学ぶとどのような点で視野が広がるのか。
- ▶ 英語で構成される文化と日本語で構成される文化を比較する。
- ▶ 言語相対論について学ぶ。



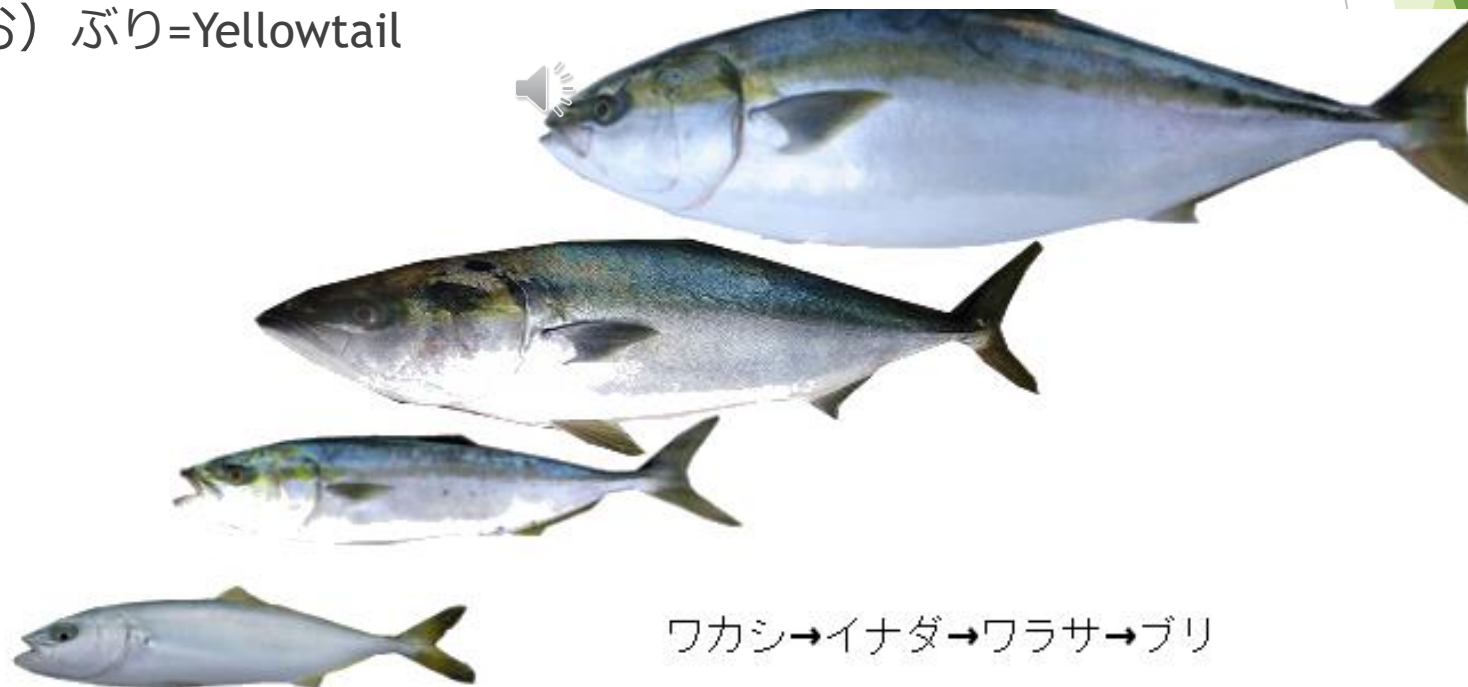
英語を知ること世界が広がる。

- ▶ 人間は、生まれてきた時に覚えた言語で世界を理解していく。
- ▶ 自国語だけしか知らないと、それは自分自身を限定することになる。
- ▶ 言葉がイメージを定めるので、外国語を知ること、イメージの持つ多面性を理解できるようになる。



世界の分節化

- ▶ 世界をどのように区分けするか言語によって異なる。分節化が異なる。
- ▶ 例えば、魚の種類を細かく知ること、その世界を詳しく知ることになる。
- ▶ 出世魚（しゅっせうお）ぶり=Yellowtail



ワカシ→イナダ→ワラサ→ブリ

言語相対論

- ▶ 言語相対論（英: Principle of linguistic relativity）、サピア＝ウォーフの仮説とも呼ばれている。
- ▶ どのような言語によってでも現実世界は正しく把握できるものだとする立場に疑問を呈し、言語はその話者の世界観の形成に関与することを提唱する仮説である。
- ▶ ベンジャミン・ウォーフが唱えた理論であり、個人が使用できる言語によってその個人の思考が影響を受けることを体系化した理論である。

言語相対論（強い論、弱い論）

- ▶ 言語相対論でも、人間の考えや認識は、言語・言葉によって大きく規定されるとするのがstrong theoryである。
- ▶ そのweak theory は、言語によって影響される部分もあるとしている。
- ▶ いずれにせよ、自分の考えが生まれたときから用いる言語によって知らず知らずに、ある程度は、作られていくのは間違いない。

その例：目玉焼き

- ▶ なぜ「目玉焼き」というのか？
- ▶ 英語では何と言うのか？
- ▶ Sunny-side upであり、
- ▶ その意味は「太陽」である。
- ▶ つまり、Sunny-side upのイメージは太陽です。
- ▶ 日本語では「目玉」に対して英語では「太陽」となる。



英語では blue だろうか？

- ▶ 英語では→green light
- ▶ She is crossing a street on the green signal. (信号が青なので渡る)



青野菜とは？

- ▶ 青野菜→green vegetable
- ▶ You should eat lots of green vegetables.
- ▶ 彼は青二才だ。
- ▶ He is very green.



青→green

- ▶ 日本では、古代では、青と緑の区分けがなかった。それ故に、その名残で、緑色を伝統的に「あお」と言う。



縦社会

- ▶ 日本語と英語では、縦社会、横社会を反映した使われ方がある。
 - ▶ 日本語でよく使われるが、英語に訳しづらい単語
 - ▶ 先輩 → senior
 - ▶ 先生 → teacher, Mr. A
 - ▶ 兄さん → my elder brother
 - ▶ 姉さん → my elder sister
- 
- ▶ その文化を反映した言語が、逆に社会のその傾向を強める。卵とニワトリの関係にある。

「これから、兄弟に会います」

- ▶ 日本語として、何か不自然です。
- ▶ 日本語では、兄か弟のどちらであるか述べることが多い。
- ▶ 「これから、弟に会います」が普通
- ▶ 英語→I am going to meet my brother.
- ▶ わざわざelder brother, younger brotherを使わない。
- ▶ 日本の社会では年齢に関心を払う。



日本では「ひげ」だが

- ▶ 英語では細かく分けてある！
- ▶ moustache
- ▶ beard
- ▶ whisker
- ▶ sideburns



他の文化圏では？

▶ 中国では？

▶ 髭（くちひげ）、鬚（あごひげ）、髯（ほおひげ）と漢字を使い分ける。

▶ 言葉を見ることで、文化の違いが見えてくる。 

言語研究

- ▶ 言語研究の時には、最初は、その単語の持つ一義的な意味を追うだけで精一杯であるが、次第に、その語（たとえば、英語）の社会での影響、日本語の該当する語との違いなどを調べると有益である。



課題

- ▶ この講で述べた以外に、英語と日本語で、その社会を如実に反映している語をいくつか挙げなさい。
- ▶ サピアーウオーフの相対論の強い理論と弱い理論の違いを述べよ。

